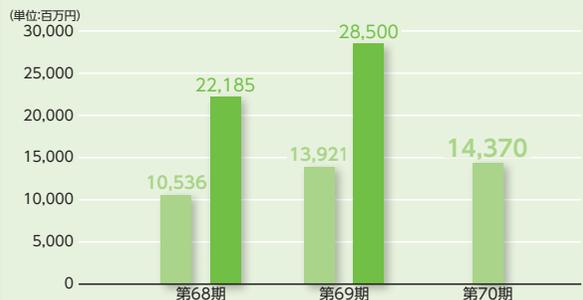


決算ハイライト（連結）

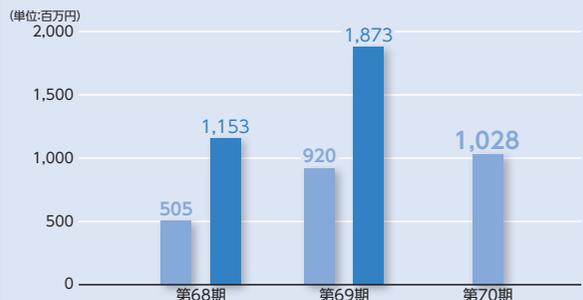
Financial Highlights

売上高



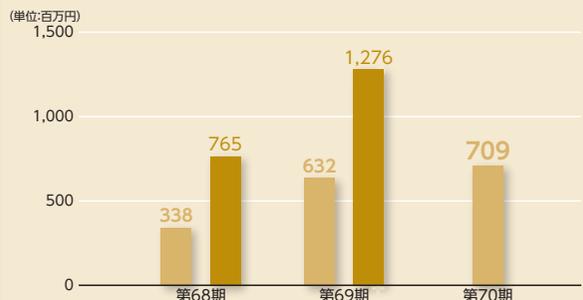
143億70百万円

経常利益



10億28百万円

親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



7億9百万円

会社の概要

Corporate Data

社名	株式会社 鳥羽洋行 (英文表記 TOBA,INC.)
本社	東京都文京区水道二丁目8番6号
設立	昭和24年12月14日 (創業：明治39年9月15日)
資本金	11億4,800万円
事業内容	制御機器、産業用ロボット、計測計装機器、コンピューター、電子機器、搬送機器、建設・管工機器、ファスナー、環境整備機器、機械工具、工作機械、理化学機器、化学工業薬品類等の販売及び輸出入。 上記に関する生産設備効率化のためのコンサルティング。 機械工具器具とその部品類の加工販売及び輸出入。 古物売買業。 土木建築工事の設計、施工の請負業。
従業員数	連結 248名 / 単体 222名 (嘱託社員を除く) (平成30年9月30日現在)

株主メモ

Shareholder Memo

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
配当金受領株主確定日	3月31日 中間配当を行う場合は、9月30日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 [電話照会先]	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 (http://www.toba.co.jp/) ただし、やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

第70期 中間報告書

Interim Business Report 2018

2018.4.1 ▶ 2018.9.30

先端技術で
社会と産業の進化を支える

株式会社 鳥羽洋行
証券コード：7472

株主の皆様へ

To Our Shareholders



平成30年12月

代表取締役社長
鳥羽 重良

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第70期中間期（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）のご報告にあたり、ご挨拶申し上げます。

当中間期の世界経済は、米国の保護主義的な通商政策が世界経済を減速させると不安視されましたが、米国及び欧州ともに安定した労働市場等を背景に好調に推移し、最も不安視された中国もほぼ堅調

を維持しました。また、わが国経済は企業業績の伸長を背景にした好調な設備投資に支えられて、緩やかな回復基調で推移しました。

このような経済状況の下で、当社グループはスマートフォンの高機能化のための設備投資需要が続く電子部品や精密機器に関連する業界、電動化並びに安全運転機能装備のための開発が進む自動車・車載部品に関連する業界、及びIoT（モノのインターネット）の進展による需要が続く半導体・半導体製造装置に関連する業界等の得意先を中心に制御機器、FA機器、及び産業機器の販売推進を積極的に行いました。

以上の結果、当中間期の連結売上高は143億70百万円（前年同期比3.2%増）、連結営業利益は9億69百万円（前年同期比12.2%増）、連結経常利益は10億28百万円（前年同期比11.7%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は7億9百万円（前年同期比12.1%増）となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

制御機器 生産工場の構成には欠かせない

売上高42億75百万円

制御機器は、空気圧機器、電子センサー、圧力センサー、流体継ぎ手、真空機器、緩衝材等で構成されており、主としてデジタル機器、半導体・液晶製造装置、基板実装機、自動車・車載部品等を製造する得意先へ販売しております。

当中間期におきましては、IoT（モノのインターネット）の進展を反映して半導体検査装置に関連する得意先からの真空センサー等の需要は大幅に増加しました。しかし、当部門の大きな柱である空気圧機器につきまして、物流システム及び半導体製造装置に関連する得意先からの需要は堅調でありましたが、前期好調であった電池製造装置に関連する得意先の需要が一段落となりました。以上の結果、制御機器全体の連結売上高は42億75百万円（前年同期比4.7%減）となりました。

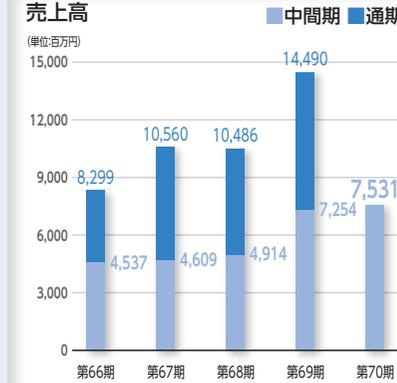


FA機器 工場の自動化・コストダウンを実現

売上高75億31百万円

FA機器は、産業用ロボット、自動組立機、表面実装システム、レーザー加工機、精密塗布装置等で構成されており、主としてデジタル機器、自動車・車載部品、OA機器、医療機器等を製造する得意先へ販売しております。

当中間期におきましては、前期に引き続いて国内外の得意先におけるマウンター（表面実装機）やFAロボット等の需要は旺盛でありました。国内におきましては、半導体検査装置に関連する得意先や車載部品に関連する得意先向けにマウンターの需要が大幅に増加しました。また、スマートフォン及び車載部品に関連する得意先向けにレーザー溶接加工機の需要が増加しました。国外におきましては省力化・自動化ニーズが続いており、総じてFA機器の需要が好調を維持しています。以上の結果、FA機器全体の連結売上高は75億31百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

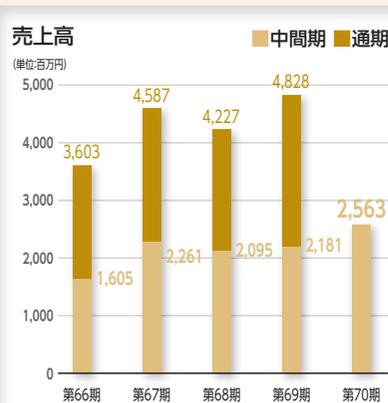


産業機器 生産組立て作業に使用されている

売上高25億63百万円

産業機器は、電動ドライバー、アルミフレーム、無人搬送車、コンベア、揚重機、ろ過フィルター、環境システム等で構成されており、主としてデジタル機器、自動車・車載部品、医療機器、精密機器等を製造する得意先へ販売しております。

当中間期におきましては、当部門におきましてもIoT（モノのインターネット）の進展を反映して半導体及び半導体製造装置に関連する得意先向けにフィルター等の需要が大幅に増加しました。また、包装機器に関連する得意先からの搬送システム等も増加しました。以上の結果、産業機器全体の連結売上高は25億63百万円（前年同期比17.6%増）となりました。



(注) 第67期より連結決算に移行しております。第66期の数値につきましては単体の数値です。

『第1回 生産ロボット展』 （一般社団法人日本能率協会 主催）に出展

開催日程 2018年7月18日～7月20日
会場 東京ビッグサイト 東ホール

“生産ロボット展”は、国内で第1回目の開催となる、生産ラインにおけるロボット活用を紹介する専門展示会です。近年、自動車や電気関係の大型生産現場では産業用ロボットの活躍の場が広がっています。当展示会では、製造業の生産ラインにおいて先端ロボットを活用した製品やサービスが紹介されました。

民間の調査によると、協働ロボットなどが非製造業に拡大されることも期待され、産業用ロボット市場は2025年までに現在の約3倍の3兆円市場にまで発展する見通しとも言われています。

このような市場のニーズを背景に、当社はユーザーに対する先端技術サービスを積極的に提供してまいります。

第1回生産ロボット展 会場風景

